

水戸黄門マラソン漫遊記

森崎 理恵

平成 28 年 10 月 30 日、第一回水戸黄門漫遊マラソン、水戸で初めての大会で、私も初めて、フルマラソンに挑戦しました。

天気は快晴、風もなく穏やかで、最高のマラソン日和でした。

朝 5 時過ぎ、暗いうちにバスに乗り水戸へ、到着して準備をしてスタート地点へ。クラブの皆さんと行動を共にし、楽しく笑って話をして、緊張はなく、気持ちは落ち着いていました。

そしていよいよスタート、周りのランナーがスピードを上げていく中、6 分半、6 分半と言いつつも、いつもの走り始めのペースを保ちました。

間もなく対向車線には、折り返したランナーが見え始め、水色の浦安ランナーズクラブのシャツも続々と来ました。

大きな声で名前を呼び、大きく手を振ると、気付いてもらい、笑って手を上げて返してもらいました。

それがまたとても嬉しく、感激しました。

皆が頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと走り、5 キロを折り返すと、後ろから「遅いよ」との声。

横を向くと、まるがりさんと、さわさんの笑顔がありました。

どれほど嬉しくて心強かったことか、また感激が込み上げてきました。

そこからは二人に付いて走り、15 キロで予定通り、右膝が痛くなり始めたので、痛くても足は動くぞ、走れるぞ、といつものように心の中で言いながら走り続けました。

コースは市街地から郊外へ、沿道の声援はどこまでも続き、青空と水戸の趣深い景色はとても気持ち良く、健康で走ることができる幸せと感謝の気持ちを、走っている間ずっと感じていました。

25 キロの給水地点からは、私が給水を取らず、ペースを保って走ったために、一人になってしまいました。

一年前にクラブに入れてもらい、土曜日の定例会や日曜朝練でクラブの皆さんと一緒に走ってもらったこと、アドバイスの一言、ひとことを思い出しながら走り続けました。

32 キロからは、練習でも走ったことのない未知の世界に入りました。ここからは、何が起るか全くわかりません。

しかし、いつもの 10 キロだと教えてもらったように思うと、スピードは上がらなくても、足は止まらず、走り続けることができました。

どンドンとゴールが近付き、最後の上り坂が見えてびっくり、まるで壁のような坂なのです。そこでもまた、上りでは腕を前に振るといいと教えてもらった通りに、腕を前に思い切り振ると、歩いている人が大勢いる中を走ることができました。

そして、ゴールへ。

前日から思い浮かべていたように、笑ってゴール、記録は、4 時間 14 分 23 秒、大満足です。

その感動を胸に、棒のようになり、思うように動かない足で歩き、荷物を置いたグラウンドへ行くと、クラブの皆さんに、笑顔と拍手で迎えてもらいました。

どれほど嬉しかったことか。

言葉では表せないほど嬉しく、感激の涙が込み上げてきました。

42.195 キロを、まさか私が完走できるとは、ほんの一年前には夢にも思いませんでした。

それが実現されたのです。

クラブの皆さんのおかげです。練習に付き合ってください、優しくアドバイスをくださったからこそ、私は走ることができました。

心から、感謝しております。

ありがとうございます。

そしてこれからもまた、よろしく申し上げます。